

2023年度第1回 学校関係者評価委員会 報告書

学校法人山口学園
ECC 国際外語専門学校
学校関係者評価委員会

学校法人山口学園 ECC 国際外語専門学校は、「学校関係者評価委員会規定」に基づき、2023年度第1回学校関係者評価委員会を実施いたしましたので、以下の通り報告いたします。

1 実施日時 2023年9月2日(土) 14:00-16:30

2 実施場所 ECC 国際外語専門学校3号館3階301教室

3 学校関係者評価委員 ※順不同

(1)関連業界等関係者

委員長 岸部 雄二 氏 株式会社 K スカイ 取締役兼総務部長

(2)高等学校関係者

貴治 康夫 氏 高等学校 教員

(3)卒業生

杉井 繭 氏 2018年度 本校海外インターンコース総合英語専攻卒業

(4)同席者

瀧山 淳一	ECC 国際外語専門学校 学校長
大谷内 圭	ECC 国際外語専門学校 副校長・教務課責任者
松井 治	ECC 国際外語専門学校 英語課責任者
榊原 悠佑	ECC 国際外語専門学校 教務課主任
奥 大輔	ECC 国際外語専門学校 入試課責任者
杉田 典彦	ECC 国際外語専門学校 キャリアセンター責任者
新谷 優貴子	ECC 国際外語専門学校 教務課専任教員
書記 高崎 章裕	ECC 国際外語専門学校 英語課・教務課

『2022年度自己評価報告書』に基づいた説明(各関係部署担当者)

報告は基準3～10の後に基準1と2で総括を行う順番で実施。

基準3の報告

基準3の報告には、教育の目標、方法、評価、体制についての説明が含まれる。

- ・ 目標の設定:カリキュラムマップを使用して学習目標や進捗を明示し、全てのコースで効果測定を実施。
- ・ 教育方法・評価:学生の目標達成のための手法や評価方法を説明。企業と連携し、ICTを活用して教育を向上。

- ・ 成績評価・単位認定: 評価方法の説明と、英語の評価強化、企業との連携を通じた学生の能力評価を計画。
- ・ 資格・免許の取得の指導体制: 英語能力向上を目指し、基準を設定。英検や TOEIC スコアを参考にし、韓国語コースでも英語教育を強化。
- ・ 教員・教員組織: 2023 年度から新しい授業モデルを開始し、教員研修を実施。授業のノウハウを教員間で共有。

基準4 学修成果

- ・ 就職率: 個別の就職指導を提供し、キャリアセンターが学生のサポートを継続的に行う。99.5%の就職率を記録し、業界就職率も7割を超えている。大学編入コースでは、2年後に大学3年次に編入するプログラムがあり、昨年度の編入実績は96.8%。
- ・ 資格・免許の取得率: 英検の合格率向上のため、様々な講座やセミナーを提供。英語カリキュラムは何度も変更され、2024年度には再編予定。
- ・ 卒業生の社会的評価: 卒業生と企業のアンケートを毎年実施。学生の特徴として、元気で挨拶が得意だが、リーダーシップやITスキルは平均的。キャリアセンターだけでなく、学校全体でスキルアップに注力すべきだとの意見がある。

◆基準3・4に関して、委員からのご意見／ご質問

貴治委員の質問: ICT教育の言語使用について。

回答: 英語の授業では、PCは英語ベースで使用。一方、PCの授業では日本語を主体に使用。共通英語科目では、作成活動や発表は英語で行われている。

岸部委員の質問: 英語を学ぶ授業と英語で学ぶ授業の比率は？

回答: コースによるが、共通英語7コマに加え、専門科目の8科目のうち6科目は英語での授業。ECCでは英語の専門性を強化している。また、コミュニケーションの授業では主に英語で進行し、Honor's ClassではTOEIC700点以上の学生が英語で様々なトピックを勉強する。

杉井委員のコメント: 総合英語や韓国語コースの学生の業界就職率の低さや、就職場所の探索難易度について。

回答: 英語を活用したい学生の求人は、空港やホテルが中心。しかし、接客が苦手な学生向けの内勤の英語使用業務の求人の獲得はまだ充分でない。このような業界への就職率の向上が必要とされている。

基準5 学生支援

- ・ 就職等進路: 全コースでキャリアセンターが指導を主導。コース主任や担任と共に指導要領を策定。キャリアデザイン授業のシラバスを画一化。
- ・ 中途退学: 最重要課題と位置づけ。学内イベントの強化や出席不良者の早期発見と補講制度の見直しを実施。社会貢献プログラムや学校生活ハンドブックの作成を検討。
- ・ 学生相談: 学生の理解が必要。コーチングスキルを持つ教員からの研修を導入。留学生の増加に伴い、留学生センターとの連携を強化。
- ・ 学生生活: 高等教育の就学支援新制度の認可、継続。保健室や学生相談室に看護師やカウンセラーが常駐。学生会と留学生会が合併し、活動範囲がコロナ禍以前よりも拡大。
- ・ 保護者との連携: 休退学対策として保護者との連携を強化。オリエンテーションや保護者会、アプリでの案内などの工夫。一部の学生には保護者との連絡が困難。
- ・ 卒業生 社会人: 卒業生との継続的な関係維持を重視。ラインアプリの登録や学校行事への参加促進、証明書のオンライン発行などの取り組み。卒業生の意見や要望を積極的に取り入れる方針。

基準6 教育環境

- ・ 設備等: 新入生全員にノート PC を配布。Google と Microsoft のアカウントを無償で提供し、Google for Education の LMS を活用。館内 Wi-Fi 環境の改善が必要。
- ・ 学外実習、インターンシップ等: コロナ禍の影響で留学プログラムは一時中止。現在はケアがしやすく時差の少ない国々での留学を再開。コースによって留学地や期間が異なる。短期留学プログラムも提供しており、現地でのボランティア活動などの付加価値を導入している。
- ・ 防災・安全管理: 避難訓練は安定して実施。高崎が防火管理者の資格を取得。

◆基準 5・6 に関する意見・質問

貴治委員の意見: 不登校気味の学生に対する対策を問い合わせ。

回答: 学校側は家庭環境のヒアリングから始め、適切な接し方を持つ者が中心にアプローチしている。

貴治委員の意見: 保護者対応について、100%のコミュニケーションが必要。

回答: 学校側は様々な方法で連絡を取るが、40%の保護者との接触が難しい。

貴治委員の意見: 家庭訪問や喫茶店での面談などの方法を提案。アフターコロナでの留学の取り組みについて。

回答: 2020 年にオンライン留学が実施されていたが、現在は授業プログラムでの実施のみとなっている。

杉井委員の意見: 卒業生用のアプリ登録に関して、卒業式当日に情報が正確に伝わらなかった。QR コードやプリント配布を授業の最終日に実施することを提案。

回答: 学校側は現状ホームページからの校友会案内を紹介。意見を取り入れられるよう検討する。

基準7 学生の募集と受入れ

- ・ 2023 年度の学生募集は新型コロナと大学全入の影響もあり、地方からの入学者と留学生が減少。
- ・ 2024 年度は専願層が 126%増、留学生募集は 300%増と前年比で微増。
- ・ 関西エリアでは進学説明会と英検対策講座を実施して高校との連携強化。
- ・ 高校との接触を増やすために検定対策講座の活用を模索。
- ・ 語学系コースの就職情報が不明確で、この点の改善が必要。
- ・ 教育内容や就職状況をブラッシュアップ中。
- ・ 2023 年度の入試はオンライン化され、スマートフォンからの出願が可能。
- ・ グローバル英語コースの学納金や留学費用の説明の明確化が進行中。
- ・ 留学の魅力を伝えるため、経験者や教員からの情報提供を強化。

◆基準 7 に関する意見・質問

杉井委員の意見: 学生時代に OC スタッフとして留学の楽しさを伝えていたが、最近の学生は留学への興味が減少している。

回答: OC の活動中には留学説明会などのコンテンツがあるが、参加者が少ない。オリエンテーションで留学の魅力を伝えているが、もっと留学を経験してほしいと感じている。

岸部委員の意見: 企業側から見ても、留学経験だけでなく、留学中の経験や困難を話す方が魅力的。現代の学生は情報量が豊富で、未知の経験に魅力を感じにくいかもしれない。

回答: 学生は SNS などでも留学情報を入手しており、直接的な説明よりも SNS の情報が入りやすい。

貴治委員の意見: 高等学校との連携方法として、英検講座以外の方法を模索。進路ホームルームでの活動や専門学校

のPRが可能な方法を提案。

回答: 高校2年生向けのガイダンスや説明会では、多くの学生が既に進路を決定している。

基準 10. 社会貢献・地域貢献

- ・ SDGs などの流行を受け、社会貢献への興味を持つ学生が増加。社会貢献のためのアウトプットの場を提供したい。

基準 1. 教育理念・目的・育成人材像

- ・ 国際キャリア学科(3年制のコース)を中心とした運営を推進し、4つの力(専門力、国際力、人間力、ICT活用力)を持つ人材を育成。
- ・ エアライン、英語、ホテル分野において3年制コースを展開中。
- ・ 留学生事業や高校生事業への参入を進めていく。
- ・ 3年制コースならではの特色や進路、卒業後のキャリアを強化し、認知度を上げるための取り組みを行う。

基準 2. 学校運営

- ・ 学園の中期計画に基づき、学校の方針を確定し、それを教職員、学生、保護者等に発信。
- ・ 教職員に対し、方針発表や情報共有の場を設定。
- ・ 新たに目標設定シートを導入して、教職員の目標を明確にする。
- ・ Wi-Fi環境の改善や入試システムの改修を進めている。

学校長より委員の皆様への質問:

下記2点について意見を伺った。

①教職員スタッフの資質向上のアイデア。

②学生のプレゼン力、ITスキル、基礎学力の向上方法。

◆上記2点についての委員からの回答と提案

貴治委員の回答: 大規模なチーム内での質向上は難しい。教員の専門分野の活用とミスマッチの回避、教員間の交流の重要性を強調。

杉井委員の回答: 学生からのフィードバックが最も効果的。一部の面談で異なる先生を参加させることで、異なる視点や意見を得る提案。

岸部委員の回答: 学生の現実的なニーズに合わせた面接指導の重要性。学生の自主性やマネジメント能力の育成の重要性を強調。

貴治委員の提案: リーダーシップやプレゼンテーションスキルを育てるイベントの実施。

学校長より閉会挨拶

18歳人口の減少に対する取り組みと留学生が増加する予測にもとづき内部の受け入れ体制を整備する。

留学生と日本人学生の交流機会が多くあることを学校の特色にする。

第2回は2024年2月10日(土)と告知し閉会となった。